

学校活用改善シート

○目的

単発の活動に終わらない、事前・事後の学習につながる単元の「ねらい」を持ち、活動ができたかを学校の視点で振り返っていただきます。より良い活用をめざして、学校・博物館で成果や課題を共有し、改善に向けた取り組みをするための資料となります。

学年	教科・単元名	◇良かった点／◆改善点／◎印象的な子どもの姿、つぶやき
1年生	生活科 「もりであそぼう」 「なつがやってきた」	◇森に行く前に緑のホールで科学読み物の読み聞かせをしていただき、植物への興味を持たせていただけたことで、進んで草花を見つけようとする姿につながった。 ◇学校にはない植物に触れたり、遊んだりすることができ、子どもたちは、とても興味深い様子であった。三和小学校の友達とグループになり、活動することで、仲間と協力しながら活動することができた。 ◇雨天で、外の活動は少なくなってしまったが、採った植物を工夫して置くことで、素敵なしおりを作ることができて記念となった。 ◇午後からタワーやミュージアムビンゴもさせていただき、子どもたちは大満足の様子だった。午後からの活動も充実しており、一日楽しめた。 ◇公共施設での行動について学ぶことができた。 森の自然に触れたり、展示室を見学したりすることで、物を大切にすることを学ぶことができた。 ◆初めての校外学習ということもあり、時間がかかってしまう部分もあるため、時間にゆとりがもてるとよかった。 ◎タワーにのぼって美濃加茂市を見る時間の際には、自分の家を探したり、知っている建物を探したりして楽しむ姿が見られた。 ◎森で採った植物を後日に学校や家の周りでも見つける姿がみられ、植物などへの興味が高まったように感じた。
1年生	生活科 「たのしいあきいっぱい」 「あきをみつけよう」 「あきのおもちゃをつくらう」	◇身近な自然の秋について知った。今までじっくり見たことがない葉っぱや実があり、発見することに喜びを持つことができた。教科書を超えて、知らない自然に興味をもつことができた。はじめての校外学習であったが、1時間程度で、バスに乗っての校外学習であったため、緊張感と満足感が適度にあり、社会に触れる活動としてよかった。 ◇天気にも恵まれ、1つ1つの活動時間が計画通りだった。 ◇たくさんの方に入っていただき支援していただいたため、子どもたちが困ることも少なく、安全に活動できた。 ◇落ち葉がたくさんあり、落ち葉を踏み音などを聞きながら活動ができた。どんぐりごまは多くの先生の見守りの中安全にできたので、普段学校ではできない体験ができた。 ◆学習の先生によって、指導してくださる内容が異なり、子どもたちの満足度に差が出てしまった。「あきの自然を使ったおもちゃ作り」を目的としていたが、打合せ内容を超えておもちゃに使えるような自然物を取ってしまったたり、材料が十分に取

1 年生	生活科 「たのしいあきいっぱい」 「あきをみつけよう」 「あきのおもちゃをつくろう」	れなかったりと学級の差も生まれてしまった。 ◆どんぐりの芽が出てしまう時期であった為、文化の森の先生方が事前に拾ったものを凍らせ保存し、再び撒いてくださった。凍らせるとどんぐりごまを作る時にひび割れやすい。もう少し早い時期が良い。 ◎「こんな秋もあるんだ。」「これも秋なんだ。」など、季節に対する気づきが生まれていた。 ◎「ちいさいどんぐりもあるね。」「ぼうしをかぶっているね。」「線がついているね。」など同じどんぐりでも色・形などの違いがあることに興味をもっていた。 ◎森に入ることをととても楽しみにしている子が多く、大きなドングリを見つけて、とても喜んでいた。また、そのドングリでコマを作ることも事前に伝えてあったため、厳選している様子があった。「このどんぐりならたくさん回ると思う！楽しみ！」 ◎壁飾りづくりでは、拾った秋の実をたくさん並べながら夢中になって作っている姿があった。 ◎どんぐり以外に柿・栗・キノコなど秋のものに興味をもって取り組んでいた。完成したこまやヘリコプターに愛着をもって楽しく遊ぶ姿が印象的だった。
1 年生	国語科 「たぬきの糸車」 生活科 「ふゆをたのしもう」 「むかしからつたわるあそびをたのしもう」 「ぶんぶんごまを作ろう」	◇「たぬきの糸車」の音読や実際に糸車を回したり、昔の家の雰囲気味わったりしたことが、国語の読み取り学習にととても生きている。ぶんぶんごまの製作は、手順が分かりやすく、子どもの実態に合っており、興味につながるいい活動だった。 ◇1組と2組が分かれて活動することで話が聞きやすかった。 ◇昔遊びをする際に、大人についてもらうことができたので、充実感があった。 ◇十分な遊び道具があってよかった。どの子も楽しく活動ができた。実物を見たり実際に触ったり遊んだりしながら貴重な体験ができた。昔の家の造りを丁寧に教えてもらえたり、糸車を全員が回す体験ができたりして良かった。声のドラマの方の朗読が素晴らしかった。 ◇場面の様子や登場人物の気持ちが伝わる読み方をされていて、表現の仕方を工夫すると良いことに気付くことができた。また、自分もやってみたいと感じることができて、これからの学習意欲を高めることができた。 ◇糸車を回すおかみさん役とそれを覗きたぬき役をお互いの気持ちになりきって体験することができた。 ◇冬の森をグループで協力しながら、他の季節と比べながらビンゴを完成することができた。 ◇学校にある昔あそびの遊び方を、他校の児童に教え、学校にない昔遊びの道具などの面白さに気付き、共に遊ぶことができた。場の設定により、昔から伝わる遊びを他校の児童とできたことがよかった。 ◇「たぬきの糸車」の時代を体験することで物語の世界に浸ることができた。

1 年生	国語科 「たぬきの糸車」 生活科 「ふゆをたのしもう」 「むかしからつたわるあそびをたのしもう」 「ぶんぶんごまを作ろう」	◇たぬきの糸車の朗読や障子のプロジェクターでの鑑賞は、児童の反応がとてもよかった。物語の世界観に浸かって楽しむことができた。国語科の音読の工夫についても学ぶことができた。 ◇たぬきの糸車の音読を聞くとともに、障子に写真が投影されてとても児童が興味をもっていた。 ◇実際に糸車を回す体験ができ、教科書にてくる登場人物が糸車を回していた時の心情を考えることができた。 ◇教科書に出てくる土間やお勝手が実際に見られたので、昔の家の作りについて深く学ぶことができた。 ◇昔遊びに興味をもち、色々な遊びを積極的に行えてよかった。 ◇昔遊びに慣れ親しむことで、昔の人は今とは違う遊びをしていたことを知ることができた。竹ぼっくりや竹とんぼ、ロープを使った遊びなど、昔の遊びは手作りばかりであることに気づけていた。 ◇まゆの家を探検できたことで、「たぬきの糸車」に出てくる「やぶれしょうじ」や「土間でごはん」など、イメージしていたものが現実で確認することができた。 ◇糸車の体験ができたことで、「キーカラカラ」の音の正体を学ぶことができた。 ◇学習した「たぬきの糸車」の朗読や、物語中に出てくる家を見学し、興味関心を高めることができた。また、昔遊びの体験を通して、今の時代とは違った遊びの面白さを感じることができた。 ◆「たぬきの糸車」の音読、ぶんぶんごま作り、昔あそび体験とどの活動もとてもよかったが、もう少し時間を確保したかった。お弁当を持参し、一日の活動にしていく方向で検討していきたい。 ◆1月に行くとまゆの家がとても寒い。また、たぬきの糸車の学習時期とずれてしまった。11月くらいに行えるとよいと思う。 ◆ぶんぶんゴマ制作の作業スピードや指導スピードに差があり、活動の差が生まれてしまった。配布物等もたくさんあったので、見通しを共有したり、指示をもらったりすれば協力できるので、できる限りの時間短縮を図りたい。 ◆昔遊びでは、本来は地域の方々と触れ合いながら楽しむことを目指したいが、学校ではなかなか実現できない。たくさんのお年寄りと触れ合いながら、伝承遊びを体験できる環境を文化の森で実現いただけると有難い。 ◆子どもの実態にもよるが、「ぶんぶんごまづくり」の時間には色ぬりも含めた時間の確保をしたい。 ◎「声のドラマ」の会による「たぬきの糸車」の朗読を聞き、情景が伝わる読み方に触れた。「あんな風に読めるようになりたい。」と感じ、学校での音読で実践しようとする姿が見られた。 ◎土間やかまどなどの道具や昔の家のつくりなどを実際に見て、驚きとても興味をもっていた。声のドラマの方の「たぬきの糸車」の音読を聞きお話に引き込まれ、音読への興味が高まった。
-------------	--	---

1 年生	国語科 「たぬきの糸車」 生活科 「ふゆをたのしもう」 「むかしからつたわるあそびをたのしもう」 「ぶんぶんごまを作ろう」	◎土間はどの児童も知らないと思われ、初めて見た子も多かった。薪や勝手口、御勝手などの昔の家特有のものに触れ、「すごい」など驚きの声が多く上がった。 ◎「障子の穴、小さくてもよく見えるね！」 ◎「朗読、ほんとにおかみさんが話しているみたいですごかった。」 ◎「難しいけれど、いっぱい練習してちょっとできるようになったよ。」 ◎昔遊び体験では、「はじめて見た。」「はじめてできた。」と満足するまで遊ぶことができた。 ◎たぬきの糸車の朗読鑑賞では、「雪がふっているみたい。」と視覚からの情報でも想像力を膨らませることができた。 ◎糸車を回すのが難しいことに気づき、たぬきが糸を紡ぐことができるのが凄い！と授業では出てこなかった発言があった。 ◎学校での休み時間に昔遊びをして楽しむ姿がたくさんあった。 ◎「糸車って意外と難しい」や「難しいのに糸をたばねるまでやり続けたたぬきすごい」など、体験したことで得られたことが多くあった。 ◎「普段はゲームばかりだけど、昔の人は体を使った遊びが多くて楽しそう」と、今と昔の違いに気付くことができた。 ◎プロジェクターを利用した朗読や「やぶれしょうじ」「糸車」を実際に見たり、触ったりしたりしたことで、物語の世界をより近くに感じる事ができた。
2 年生	生活科 「春だ 今日から2年生」 「生きものなかよし大作せん」 「なつがやってきた」 国語科 「たんぽぽのちえ」	◇実際にある植物を用いて実験をしたり、説明を受けたりすることで多くの児童が興味関心を高めながら、活動に参加していた。博物館でのビンゴも楽しく参加することができていた。 ◇季節の植物や昆虫の読み聞かせに興味深く聞いていた。出てきた植物(カタバミ)を外での活動ですぐに見つけることができたので、意欲をもって取り組むことができた。班別での施設見学では、クイズを活用してスムーズに活動ができた。 ◇森の散策では、子どもたちがなかなか知らない植物についての話が聞けて良かった。 ◇読み聞かせは、こちらが希望した本を読んでもらったが、タンポポのちえとつながる部分があったり、初めて知る部分があったりしてとても良かった。 ◆ビンゴが早く終わってしまうので少し難しくしてもよかった。 ◎タラヨウの葉に文字を書いたり、十円球を磨いたり、実際に手に取ってできるものを楽しそうに行っていた。持ち帰らせていただいたタラヨウの葉は、みんなで文字を書いて教室に飾ることができ、何度も眺める姿があった。 ◎学校で見つけた植物と同じものを「これはなんという植物ですか？」と聞く姿があった。土日に、おうちの方と文化の森へ改めて行く姿もあった。 ◎楽しそうに植物を見たり触ったりしている姿があった。

2 年生	図画工作 「どんどんならべて」	◇展示室や森の散策を通じて、文化の森にはどのようなものがあるのかを知ることができた。 公共施設のマナーを学ぶ良い機会となった。 ◎グループ活動の際には、班の仲間同士で助け合ったり、声を掛け合ったりして活動する姿が見られた。
2 年生	生活科 「みんなでつかうまちのし せつ」	◇グループごとに活動を行ったことで、施設の「やさしさ」に触れたり、実感をもって発見することができた。 ◇丁寧に説明してくださり、分かりやすかった。 ◇様々なやさしさがある施設なので、初めて行うやさしさみつけにちょうど良かった。 ◇文化の森の建物の中や駐車場を見て回り、障害のある人、お年寄り、小さな子、赤ちゃん連れの親など、どんな人も気持ちよく、安全に利用できるようなやさしさや工夫があることに気づくことができ、これまで何気なく訪ねていた施設について深く学ぶことができた。 ◇文化の森の施設としてのやさしさをたくさんみつけた。総合案内やかいだん、自動販売機や多目的トイレのやさしさについて、子どもたちの興味をひくような問いかけで、たくさんお話をしてくださったので、子どもたちもたくさん見つけ、メモをとることができていた。 ◇実際に施設の中を見ながら「やさしさみつけ」ができた。 ◇ビンゴをやりながら楽しく学習することができ、文化の森の方が詳しい説明をして、メモを取る時間や質問の時間もたくさんあったおかげでたくさんの学びがあった。 ◆チームに分かれたおかげで施設のやさしさをたくさん見れたが、その分児童を見届ける教員が必要。 ◆事前の質問にはたくさん答えていただけたが、実際に見学して生まれた質問に答えていただく時間も確保してもらえるとありがたい。 ◆説明はとても分かりやすかったが、子どもたちが自分たちで探す時間を少しとってもよいかと思う。 ◎エレベーターに鏡が取り付けられていることに関して、どうしてかを予想していたのだが、車いすの方が扉が開いたことを確認するためと聞いたときに「おお。」という声が上がっていた。学校に帰ってまとめの活動をした際に、それぞれの場所のやさしさについてたくさんの挙手があり、学びが多くあったことを感じられた。 ◎車いすの人のためにこんな工夫があるよ。目が見えない人のために展示があるよ。などの話を「すごい。」「本当だ。」「ここにも優しさがある。」と反応しながら聞いていた。 ◎自動販売機や、拡大鏡を他の施設や日常生活でもよく観察し「これには受け皿がないな。」など、文化の森の様子とくらべる姿が見られた。 ◎老眼鏡、点字ブロック、点字地図など、実際に触れることが初めてのものに興味津々で、何度も見たり触ったりしていた。

2 年生	生活科 「みんなでつかうまちのし せつ」	◎後日、もう一度家族で文化の森を訪れ、実際に自動販売機を利用し、その配慮を体験する児童がいた。 ◎「こんなやさしさがあるんだ。」「また今度文化の森に行ってみよう。」「おうちの人にも教えてあげよう。」など実際に見ることで気づきや関心が深まった。 ◎友達と一緒に頑張ったり、文化の森の方の話を真剣に聞いたりなど楽しく自ら学ぶ姿があった。
2 年生	生活科 「たのしいあきいっぱい」 「みんなでつかうまちのし せつ」	◇学校での事前のやさしさみつけでは、学校のみんなへのやさしさという視点で活動したが、文化の森での活動を通して、老若男女のみんなに向けた優しさを考えられて、視野が広がる活動が有意義にできた。 ◇やさしさ見つけをするときに、それぞれのスポットに先生方がいてくださったおかげで、補助カーを実際に使ってみることができたり、誰のためのやさしさなのかを考えるヒントをくださったりして、子どもたちの学習がより深まった。 ◆どんぐりごまでも楽しく遊んだが、どんぐりヘリコプターの方が楽しく遊ぶことができたため、予定に初めから入れてよかった。 ◎館内図を見て、英語表記があったり現在地が目立つように工夫されていたりするのもしやさしさだと見つけている児童がいた。 ◎伊深小学校の児童との関わりをもつことができ、「三和と伊深の子がなかよくなれたね!」と子供たちが振り返ることができていた。
2 年生	国語科 「スーホの白い馬」 生活科 「秋をたのしもう」	◇みのかも「声のドラマ」の会による朗読を聞かせてもらい、学校での音読とは違った読み方に触れることができた。気持ちを込めて読む指導を丁寧にしていただき、子供達も自分の変容に気づき、充実した活動になった。 ◎学校での音読では、気持ちをこめて読むことに恥ずかしさを感じている様子であったが、声のドラマの会の方に指導していただき、自信をもって表現する姿が見られた。その後、学校でも、気持ちを込めた音読に意欲的に取り組むことができた。
3 年生	社会科 「わたしのまちみんなのまち」 「市のようす」	◇授業で学習した美濃加茂市の様子について、タワーや立体地図で実際に見て確認することで、学びを確かなものにすることができた。 ◇展望台から見ることで、蜂屋の町や市の様子を知ることができ蜂屋から美濃加茂市へと子ども達の視点が広がりました。 ◇タワーから市内全体を見て、市の様子が実際に把握できたので、地図やメモを見返しながら事後指導に役立てたい。 ◇「みのかもすごろく」で、楽しみながら美濃加茂市の特徴を学習することができてよかった。 ◇私たちの住む美濃加茂市の移り変わりを、航空写真をみて田や畑、土地の高低、人口や建物から学ぶことができた。 ◇タワーに登って実際に知っている建物や景色を見ることで、どの方角に何があるのか、よく分かった。 ◆展望台から町の様子を見ましたが、杉の木が伸びており子ども

3 年生	社会科 「わたしのまちみんなのまち」 「市のようす」	達の背丈ではなかなか見るのが難しかったです。 ◆立体地図を見る活動は、当日一般のお客さんの時間と重なってしまったことや、内容が少し難しいこともあり、集中しきれない児童がいた。 ◎また、タワーから美濃加茂市を見た際には「北には山が多くて南には街があるね。」と、市の様子を自分の目で確認して発言する姿があった。 ◎「東に下米田小があると分かった。」「美濃加茂市にはいろいろな場所があるのだな。」 ◎美濃加茂すごろくを通して、美濃加茂市の地名や農産物、特徴を知ることができた。
3 年生	理科 「チョウを育てよう」	◇実際にチョウを顕微鏡で観察したり標本を見たりしたことで、児童が高い関心を持って取り組むことができた。 ◇モンシロチョウの卵を顕微鏡で見ることができ、実物を大きく見る貴重な体験をすることができました。 ◇「みのかもすごろく」で、楽しみながら美濃加茂市の特徴を学習することができてよかった。 ◇顕微鏡でタマゴの観察をしたり、昆虫の標本を見たりする活動では、子どもたちは意欲的に取り組み、ノートに観察の結果を書くことができた。 ◆理科に関する時間が限られていたので、1 時間程は確保したい ◎電子顕微鏡での卵の観察では、興味をもってワークシートに観察したことを夢中にメモする姿が見られた。生まれたてのモンシロチョウの幼虫を実際に見せていただき、緑色の幼虫ではなく、少し黄色がかった幼虫であることを見て、「教科書と同じだ」という声も聞かれた。 ◎チョウのたまごをよく観察して「トウモロコシみたい!」と発言する児童が多かった。 ◎モンシロチョウの卵を顕微鏡で見ることを通して、卵から幼虫になり、さなぎ、成虫へと変化することを知った。 ◎「昆虫は、足が 6 本で、羽は 4 枚だと分かった。」
3 年生	国語 「春風をたどって」	◇森の中での朗読は、子どもたちの想像力につながる知的な体験になった。 ◎朗読の際、目を閉じて物語を聞き、自然の音を味わっていた児童がいた。 ◎文化の森の中で「きつつきの商売」の読み聞かせを聞き、野鳥のなき声や森の中の風に触れる体験ができた。
3 年生	総合的な学習の時間 「白隠禅師について」	◇白隠禅師についてスライドを見ながら説明を聞き、白隠がどのようなことをしたのか、また、山之上との関わりについて学ぶことができた。 ◇禅画について、実際に墨を使って、絵を描くことを体験することで、禅の「心を落ち着ける」考え方を感ずることができたと同時に、白隠について関心を持つことにつながった。 ◎スライドを使って説明を受ける中でメモを取り聞く姿が多くみられ興味を持って取り組むことができたとうかがえた。

3 年生	総合的な学習の時間 「白隠禅師について」	◎墨で絵を描くことが初めての経験であり、自分の描いた線やにじみ、濃淡の変化に喜ぶ姿が見られた。
3 年生	社会科 「市のうつりかわり」	◇古い道具を実際に使うことで、今の暮らしとの違いを知ることができた。 ◇洗濯板体験・・・板と石鹼の工夫を詳しく説明頂いたので、「物を大切に扱う」意識が高まった。 ◇七輪体験・・・事前の指導が丁寧で、児童の自発性につながりました。また、ボランティアの方が、全て手伝うのではなく、児童に考えさせてやり切らせようと支援してくれて助かった。 ◇炭火アイロン体験・・・所員の先生のお話がとても聞き取りやすく、また、アイロンがけの際に補助に入っていただき丁寧に指導していただき、子どもたちも安心して活動することができた。 ◇昼食…雨天や寒い場合の場所を事前に提案くださりありがたかった。 ◇洗濯や七輪、昔の道具に関心をもち、どの活動にも意欲的に取り組むことができた。その中で、特に、冬場の洗濯は水も冷たく昔の生活の大変さをよく実感していた。火起こしをして餅を食べる活動では、七輪の中に入れるものの名前や、順番にも興味をもち、楽しんで活動することができた。 ◆午後の道具の移り変わりを学習する時間がかかり、出発時刻が遅れてしまった。①「オカッテから土間での台所しごとの道具の観察」②「石臼挽き体験」③「灯りの移り変わり」④「暖房器具の移り変わり」の中で、1つを減らしていただくと、時間的余裕が生まれると感じた。②はとても貴重な体験となったため、残していただきたい。③については、実際に道具を見せていただきながら説明していただき分かりやすかったが、「灯りの広がり」を実感するためには、灯りをつけていただければ、更に、児童の理解につながった。 ◎布団の中をあたたくするための道具が今では考えられないからびっくりした。 ◎昔の洗濯は冬の時、とっても冷たくて大変だったな。 ◎様々な体験活動から「体験して楽しかった」で終わらずに、昔の人の知恵や努力のすごさについて実感している児童もいた。 ◎昔の明かりの道具や箱膳など、初めて見るものにとっても関心を示し、自ら進んでたくさん質問をする姿があった。 ◎昔の生活を知ることができたことによって、今のくらしの便利さを感じることができ、昔の人の苦労にも気持ちを向けることができた。
4 年生	社会科 「きょう土の伝統・文化と先人たち」 「きょう土をひらく」	◇太郎洞池を見に行き、その大きさや堤防の構造などをくわしくすることができてとてもよかった。中学生の子が、堤防の大きさを示すために立ってくれたのもとてもよかった。道具体験では、人力の大変さについて実感することができていた。古文書など貴重な資料を見せていただいて、『歴史』というものを知ることができたと思う。

4 年生	社会科 「きょう土の伝統・文化と 先人たち」 「きょう土をひらく」	◇実際に歩いて、当時の人が作ったダムの高さや池の広さを見ることができたことが良かった。 ◇昔の地図をみんなで読み取る時には、みんなじっくり地図を見てみんなで何が描かれているのか地図の色や線の濃さ、漢字などを手掛かりにして考えることができた。 ◇昔の道具(もっこ)を実際に体験して当時の人の苦労を肌で感じる事ができた。 ◇学校で学習した、ため池を作るために使用した道具の話や当時の人々の思いを聞くことで、昔の人の功績やため池を作るに至った経緯などを当時の人々の思いや願いと重ね合わせて考えることができた。 ◇実物の史料や立体地図を見て、読み解く活動は、社会の事実を読み取り考察する力を身に付けるのにとっても効果的だった。児童も謎解きのように、興味関心をもって取り組んでいた。実際の道具や池、堤防を見て解説いただけるのも記憶に残る活動だった。 ◇「もっこ」や「せんつき」を実際に体験することで、ため池をつくるために必要な労力や時間を考えることにつながり、児童の興味・関心をさらに惹くものとなった。 ◇実際にため池に出向くことで、先人たちが美濃加茂のためにどれほどの規模の活動を行っていたのか、体験的に理解することができた。 ◇当時の計画書のレプリカから気づいたことを交流する活動では、具体的にどのような工事が行われていたのかイメージがしやすかった。 ◇太郎八がどのような人物であったか、子どもたちとやりとりをしながらの紙芝居がとても興味深く、その後の学習でも印象に残っている様子であった。実際に昔の道具を体験させていただけたことで、当時の苦労や人々の思いに心を寄せることができ、よい体験になった。 ◇学校で一通りの学習をした後だったが、実際の模型や、道具・堤防の実物、分かりやすいスライド資料を使って教えていただき、学校では想像にとどまっていた理解がより深まった。 ◇太郎洞池や堤防付近を実際に見学する活動を通して、ため池や堤防の大きさを実感することができた。 ◇堤防づくりの道具を使った作業体験を通して、昔の堤防づくりに関わった人々の苦労や工夫を感じることができた。 ◆川の見学の際に、屋外ということもあってか車の音等もあり、聞こえづらい児童もいた。 ◆昼ごはんを食べる際、奥の芝生は草が多く虫も多かったこと。 ◆帰りに太郎洞池でバスを降りて、池を見る予定であったが、両日とも時間がとれず、降りての滞在時間は1分程度になってしまった。 ◎神社が建てられるほどすごい人だと学習したけど、その理由について詳しく学習することができた。河岸段丘がどこの段差の
-------------	--	--

4 年生	社会科 「きょう土の伝統・文化と 先人たち」 「きょう土をひらく」	ことなのかを知り、驚いていた。 ◎昔の地図の読み取りでは、「緑は森とか木かな」「このまっすぐな線は何かな。」「水色は水を表しているんだ！」など、みんなで予想して予想が当たった時は、児童も喜んでいたり、考えた分深く学んだりすることができました。 ◎池の模型を見ながら、「たしかに池の形こんなふうだったな」「見えてないけど奥にも広がっているんだ」「歩いたところはダムで、たしかに池が低い位置にあったなあ」など地図と実際の池をつなげて模型や地図を見ることができた。 ◎河岸段丘というものは、言葉だけでは理解が難しいそうだったが、実際に見に行ったことで「段々になっていることがよくわかる」など、その意味が分かった様子だった。 ◎昔の道具を体験した児童が、まだ体験していない児童に、どんな感じだったのかを伝えたり、身振り手振りで表現したりしている様子が見られた。 ◎道具体験「1回でも疲れるのに、これを毎日何年も続けたなんてすごく大変だ!」「当時の人たちは、ものすごく頑張ったんだね。」 ◎ため池・堤防見学「こんな大きな池を人の力で作ったなんてすごい!」「こんなに高く土を積むなんて、想像もできない!」 →当時の人の苦労や、功績の大きさを実感することができた。 ◎道具を体験する時間で、楽しそうに活動する姿が見られた。 ◎実物の史料を見て、言葉や色、線から内容を読み取るときに、難しいことではあるが、それを楽しんで考えている子が多かった。 ◎実際の池づくりの道具を体験するときに、大変さを実感したようで、当校の森の活動の中で、穴を掘って基地を作っているときに、道具の名前やため池づくりの大変さが話題に上がっていた。
5 年生	総合的な学習の時間 「米づくりの1年」 「稲を育てる」	◇昔の米作りに関わる道具を見たりさわったりすることで、今の米作りとの違いを理解することができた。その活動の中で、道具の形状や部品、大きさ等からどのように使うのか考えることで想像したり考えを深めたりすることで、より昔の米作りの大変さが実感できた。 ◇昔の人々の苦労を知り、よりよいお米を作りたいという願いと米作りの知恵を学ぶことができた。 ◎事前に千歯こきや脱穀機などを画像で見せた。実際に道具を使って体験することで「こっちの方が千歯こきより楽ちん」などと、脱穀の仕方が格段に変化したことがわかり、大変さも実感できた。唐箕体験では、風によってわらが飛ばされる様子に感動していた。活動の時間を十分に確保していただけたことがよかった。 ◎メモをとったり、初めて見る道具をイラストなどで書き留めたりする姿から興味をもって取り組めたことがうかがえた。

5 年生	総合的な学習の時間 「米づくりの1年」 「稲を育てる」	◎学校の学習田での米作りの過程、稲刈りの時に関わる業者にコンバインの内部を見せていただいた。そしたら昔の道具の形状が利用されていて、「昔の道具と同じだ。」と気づく子がいた。
5・6 年生	社会科・ 総合的な学習の時間 「米作りのさかんな地域」	◇竈に実際火をつけて、お米を炊くことができた。昔の道具を実際に見て、想像しながらどのような作業で使われたのかを考えながら学ぶことができた。 ◎昔の人は、お米を炊くのにとっても大変な思いをしていたんだな。 ◎今は昔と比べて便利になったから、楽でいいね。 ◎昔の道具も今でも使われているものがあり、便利なものは時代を超えて利用されているんだね。
5・6 年生	家庭科 文化の森を楽しもう	◇自分たちで作ったお米をガス釜で炊いたり、持ち寄った野菜等で具だくさんの味噌汁を作ったりすることができた。 ◎自分たちで時間をかけて作ることができてよかった。
5 年生	理科 「流れる水のはたらき」	◇上流と中流それぞれの川の様子や違いから、川の流れの速さの違いや浸食・運搬・堆積のはたらき、大きめのごつごつした石の感じの理解ができていた。理解するのに適切な場所であった。実感を伴う理解となっていた。 ◇上流と中流を比較しながら観察することができ、違いを明確にすることができた。具体的に川の流れや川岸の様子、そして川辺にある石の大きさや形に着目するように視点を与えていただけたことで、児童も意欲的に活動することができた。 ◇「なぜ、美濃加茂市側に水害が多いのか」を理科とつなげて、実感をもって理解できる学習になる。是非、今後も継続していただきたい。 ◇川の上流と中流で、流れる水の様子や川原の様子、石の大きさや形を比較し、流れる水の働きの理解を深めることができた。 ◇川のような場所を観察することにより、川の外側と内側の侵食・堆積の働きの違いを確認し、学びを深めることができた。 ◇チャートの硬さについては、授業で学んでいたが、実際にチャート同士、チャートと別の石をぶつけて硬さを確認することができた。 ◇美濃加茂市の河川の様子を、上流から中流かけてわかりやすく説明してくださったので、授業で学んだことが「確かな記憶」として残る深い学びにつながった。 ◇内側と外側の流れが、枝の実験により確かなものになりとても分かりやすかった。 ◇木曽川の石を実際に触ることができたので興味が深った。また、流れてきた堆積物で、水かさが増えた時の様子がイメージできた。 ◇美濃加茂市の水害の当時の様子の掲示が、コンパクトでとても分かりやすかった。 ◇実際の川を見学し、川の様子や流れる水の観察をすることを通して、土地の浸食、石や土の運搬、堆積のはたらきを知ることができた。また、川の上流や下流によって生まれる違いについて

5 年生	理科 「流れる水のはたらき」	でも理解を深めることができた。 ◆川浦川 2 つ目の地点の川岸へ下りる階段と足元の危険を感じた。限られた時間の中での移動のため、間隔をあけて歩かせることも難しく、事故につながる可能性もある。 ◆川浦川の学習ではトイレがないため、学習係の方にご対応いただいたが、複数名いた時に対応できないように感じる。 ◆虫刺されが多数あり、長袖長ズボンでの参加を推奨すればよかった。 ◆雨天の場合（今回のような少雨ならば OK）、上流の河川に降りて観察するのは、難しいと思った。可能なら、上流に行く所は文化の森や学校で動画やプレゼンテーションを使って話を聞くような学習にしても良いと思った。 ◎上流の見慣れない河川の様子に驚いていた。太田小の子ども達にとっては、新鮮さがあった。 ◎上流は石が大きくてごつごつしている。中流は石が丸っこい。川の外側、内側とでは流れる速さも違うし、流れが速いと削られている。 ◎「曲がるところは外側と内側で流れる速さが違うのかな。」「本当だ、同じ川でも流れが違うんだ。」 ◎V 字谷では、実際に指でピースの形をつくり、V の字になっているのか、仲間と確認し合い、意欲的に取り組むことができた。 ◎児童の中で上流・下流の水の流れや、堆積・運搬・浸食の言葉が体験としてより確かなものとして捉えられた振り返りにつながった。 ◎川の見学の際に、子どもたちが興味をもって見学に臨んでいた。講師の方の話を聞きながらメモを取ったり、スケッチをとったりして意欲的に活動する姿が見られた。
6 年生	社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」	◇縄文土器や弥生土器の実物を目にしたり触れたりすることができたことで、授業で学んできたことを実感することができた。実際に見ることで、詳細な観察ができ、特徴をつかむことができた。 ◇縄文土器を実際に作る活動を通して、純粋に土器づくりを楽しんでいたこともあるが、何千年も昔の人々がこのような作業をしていたことを自分と重ね合わせながら取り組んでいたことを知ることができたのが良かった。 ◇出土品を解説して頂いたり触らせて頂いたりして大変よかった。 ◇自分たちの住む地域で発見された遺物や土器片にふれたことで、昔のくらしの様子が自分たちの身近にあることが実感できた。歴史学習の導入として、子どもたちの関心を深めることができた。 ◇土器の破片の観察では、最初にどの時代なのか予想をしたうえで解説を聞くことができ、主体的に学ぶ児童の姿につながった。 ◇教科書の写真だけでなく、実物を見たり、触れたりすることが

6 年生	社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」	できたことで歴史を身近に感じることができた。 ◇土器づくり体験では、楽しんで行っていた。もっと時間をかけてもよかったくらい。 ◆土器片探しの活動を、土器片に触る体験におきかえてもよかった。拾いつくされて土器片が見つからない。 ◆土器片の採取の活動を行ったが、文化の森が建設されて約25年が経ったこともあり、土器片は発見できなかった。土器片を発見するつもりで張り切っていた児童がパニックになってしまい、なだめることが大変だった。ほとんど見つからない活動であるなら、見直した方がよいと思う。 ◆縄文、弥生時代について学習してからの文化の森活動だったが、本来は公民分野を学んでから歴史学習に入るため、それに合わせて実施時期を遅らせたい。6月頃にはできないか。 ◎年代を特定したり、土器の模様に込められた願いなどを考えたりする考古学の学問に興味を抱く子もおり、いろいろな面で関心を高めていた。 ◎授業だけでは難しかった、古代の人々の苦労や考えていたことを想像している姿が見られた。 ◎土器の模様づくりに一生懸命だった。 ◎実際に発見されたものが美濃加茂市のこの場所で…という説明に感動していた。その後学校や家周辺でも遺物探しをする姿があった。 ◎文化の森の敷地自体が遺跡であることに驚く様子があった。
6 年生	総合的な学習の時間 「日本文化を知ろう」	◆晴天の場合、茶道体験を行うには暑すぎた。
6 年生	理科 「大地のつくりと変化」	◇理科で学習した地層について、美濃加茂市の実地の地層を見ることで、学習内容を深めることができた。 ◇実際の岩石に触れる活動を通して、岩石のできたしくみや触った感触など、貴重な体験活動ができた。 ◇木曽川の水のはたらきでできた地層を見学する活動で、実際の化石に触れたり、地層を近くで観察したりできたので良かった。 ◇実際の地層や岩石を見学することができてよかった。 ◇特に、岩石の標本は学校では、小さなものが1つずつしかないもので、大きな岩石を実際に触れることができて良かった。 ◇地層や岩石、化石などの見学を通して、自分たちの住む大地が水や火山のはたらきでできていることを知ることができた。また、土地の変化についても学習したことを活かして活動に取り組むことができた。 ◎地層の特徴をよく観察し、メモをしたりスケッチをしたり意欲的に取り組んでいた。 教科書や資料の写真で見るとより間近で見て驚く姿もあった。 ◎振り返りでは、「また地層を見に行きたい。」「化石や地層から身近にも広がっていることが分かった。」という発言が見られ、意欲が高まった。土地の変化についても学習したこと

6 年生	理科 「大地のつくりと変化」	を活かして活動に取り組むことができた。
中学生	総合的な学習の時間 「地域を知る 1」	◇双葉中学校は美濃加茂市と富加町の小学校から生徒が入学してくる。富加小学校出身の生徒にとっては文化の森はあまりなじみがないので、今回は導入に「文化の森ウォークラリー」を行った。クイズに答えながら楽しく過ごすことができた。中学生版を用意してくださって大変助かりました。 ◇後半は、美濃加茂市について、展示資料などを用いて学ぶ機会となった。文化の森を活用した内容となった。 ◆10 月にもう一度文化の森活用学習があるので、2 回を 1 セットとし、学びがつながるように計画を進めていくことが効果的である。
中学生	総合的な学習の時間 「地域を知る 2」	◇専門的な内容を、中学生にもわかるようにプレゼンしていただけたり、どの活動の中にも体験的な活動を仕組んでくださったりしたおかげで、生徒の満足度も高かった。 ◆活動によっては費用が掛かるものもあった。今回は現金徴収を行ったが、集金や支払いの方法については、注意をしていかなければならない。
特別支援	生活単元 「文化の森探検（ビンゴ）」 「森のビンゴ」 「文化の森をたんけんしよう」 「文化の森をたのしもう！」	◇館内の探検、森の探検とビンゴを通して児童相互が関わり協力することができた。 ◇今年度は森のビンゴの途中で雨が降ってきたため、昼食を早め、昼食後に工芸室でグループ活動を行った。 ◇暑さ対策として、外で遊ぶ時間を昼食後からはじめの会の直後に早めた。短い時間でも体を動かして発散できたので、その後の活動に集中することができた。 ◇今回は五平餅づくりをさせていただいた。協力して活動する場面を工夫してつくっていただけてありがたかった。 ◆晴れの場合：森のビンゴ、雨の場合：館内のビンゴとビンゴは 1 種類だと高学年のリーダーの負担にならず活動しやすい。 ◆活動が毎年同じにならないように、作るものや題材、教材等を文化の森の方々や打ち合わせながら考えていきたい。 ◎芝生広場で普段、関わるのが少ない児童同士でも声を掛け合って遊ぶ姿があった。 ◎「初めて七輪を使って火をおこしたんだ！こんな風におこすなんて知らなかった！」という 6 年生児童（本年度転入生）や、「〇〇さんが手伝ってくれたんだよ！」と嬉しそうに話してくれた 1 年生児童の言葉が印象的だった。て遊ぶ姿があった。
特別支援	生活単元学習 「かまどでごはんを作ろう」	◇実態に応じた調理活動を位置づけることで、どの児童も参加することができ、自身の生活に繋がる体験をすることができた ◇かまどで「ご飯」を炊く活動では、今まで体験したことのないことができてよかったです。（ご飯の炊けて時におい、かまどの熱さなど） ◇粘土での作成は、学年に応じて丁寧に対応していただき、どの子も満足していました。 ◇昔遊びの種類がたくさんあり、楽しむことができた。

特別支援	生活単元学習 「かまどでごはんを作ろう」	◎普段の給食に比べ、たくさん食べる姿が見られた。 ◎ご飯を使って自分でおにぎりを作り、笑顔いっぱいではおぼる姿が、すてきでした。 ◎他者と関わりながら、楽しそうに遊ぶ姿があった。
特別支援	生活・自立 「文化の森へ行こう 焼き芋づくり」	◇焼き芋作りでは、低学年が火おこしに必要な材料を森から調達してくる活動、高学年がドラム缶に火おこしの準備をする活動と分かれて活動できたことで、それぞれの学年に合った能力の活動ができてよかった。 ◇焼き芋が出来上がるまでの時間は、待つことが難しい子どもたちでも楽しく、ビンゴの活動に参加することができた。児童の特性に合う多くの活動がありよかった。 ◆学校で掘った芋が腐ってしまっているものも多くあったので、焼き芋の活動をするなら、年内がよいと感じた。
特別支援	生活単元 「ハンカチを染めよう」	◇割りばしや輪ゴムの縛り方を試行錯誤しながら、模様を作っている姿が良かった。ただ作るだけではなく、想像力を働かせながらつくることができて、楽しそうに作業をすることができた。 ◇出来上がりも仲間同士で見せ合ったり、褒め合ったりして、想像通りでなくても模様の面白さや味に繋がっていた。 ◎「家で飾ってあります!」「一度使って洗ったら、また違う色になりました!」と、家に持ち帰ってから作ったものを大切にしている声があった。
特別支援	生活単元 「マグカップを作ろう」	◇特別支援の生徒の特性ゆえの行動に対しても、スタッフの方に寄り添っていただき、臨機応変に動いてくださり大変ありがたい。 ◇一人一席に用具を用意していただき、落ち着いて活動することができた。工程の中で完成図やイメージの大きさを見せていただくことで、見通しをもって、自分でも試行しながら取り組むことができた。 ◆工程が多く、時間が少々足りなかった。ペットボトルや缶などの型に、新聞を巻いておく作業も事前に学校で準備しておく、文化の森での工程が一つ減って時間確保になったかもしれない。 ◆仕上げるスピードに差もあり、絵付けまでたどり着かない生徒もいた。進みの遅い生徒には、担任がもっと支援していかなければならない。 ◎第3回で完成したマグカップを使用することを大変楽しみにしている。一単位のための学習もよいが、次時につながる学習も次への楽しみがあってよい。
特別支援	生活単元 「オリジナルマグカップでティータイム」	◇事前学習で工程を説明しておくことで、見通しをもって活動することができた。工程もシンプルだったので失敗や遅れがなく、全員が自信をもって最後まで活動ができた。 ◇せいろなどの昔の調理道具に興味を示していた。普段触れられるものではないので、貴重な学びになった。 ◎子供たちが芋きんとん作りを楽しんでいた。つぶしたり丸めた

特別支援	生活単元 「オリジナルマグカップで ティータイム」	りする工程で、「なめたかにしたいからよくつぶす。」「甘くしたくないから少なくしよう。」「形をきれいに成型しよう。」など、シンプルな工程だったからこそ、工夫して楽しむことができた。
特別支援	生活単元 「かまどでごはんを炊こう」 「カレー＆白玉だんごをつくろう」	◇実際にかまどを使ってご飯を炊いているところを、初めてみる生徒が多かったので、よい体験になった。 ◇暑い時期で、熱中症への対応をしていただけてありがたかった。作業を日陰で行ったり、食べる場所を外から冷房の効いた部屋に変更したりして、熱中症対策をしていただけた。 ◇七輪の準備について丁寧に説明をしていただけてよかった。 ◆かまどの体験を見る・説明を聞くだけでなく、代表者数名で、鍋をセットする、まきを準備するなど、なにか体験できるとよかった。 ◎かまどでご飯を炊く場所を見て、驚いている姿があった。 ◎七輪の準備の際、なかなか火がつかなくても、一生懸命火をつけようとする姿があった。初めて七輪を使う生徒は苦労していたが、火がついたときの喜ぶ姿が印象的だった。
特別支援	自立活動 「どんど焼き」 「墨絵体験」	◇どんど焼きを燃やしているときに、手を合わせて願いを込めている生徒の姿があった。また、灰が高く上がったときに、歓声があがっていた。事前学習を行ったため、行事の意味や伝統について理解してどんど焼きに臨むことができた。 ◇墨絵体験では、初めて墨をする生徒が多かったが、学習係の先生の説明を理解して、すり方を知れたり落ち着きながら心を込めてすったりすることができた。 ◆学校で事前学習をしたが忘れてしまう生徒もいたので、文化の森でも、活動前にどんど焼きの意味を少し触れられるとよかった。
特別支援	生活単元 「葉っぱでおさらをつくろう」	◇身近な自然に触れて親しむとともに、集中して取り組む時間や仲間と活動する時間を確保することができた。 ◎完成したお皿がどのようなものになるのかを楽しみにしている姿が見られた。 ◎展示室では、マナーを守って活動することができた。